（一般質問より）

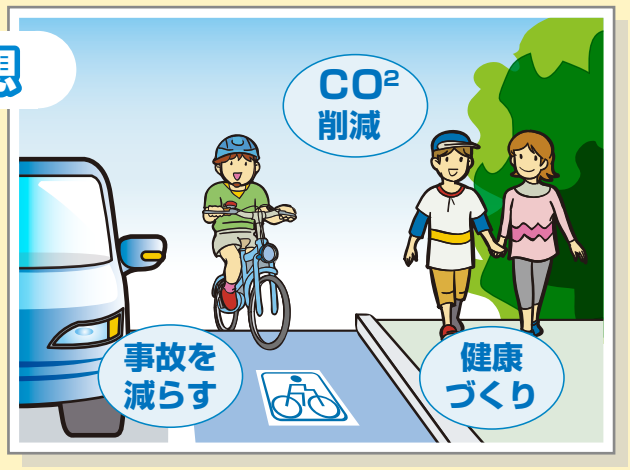
認知症の患者家族を地域で支える

地域での認知症サポーターを養成して、民生委員や自治会との連携を強めていくことが重要です。情報の共有の仕方や体制づくりが望まれます。

通級指導教室を全ての小学校で実施するよう求めていきます

現在通級指導教室は南小学校にしかありません。これはすべての小学校を対象にした拠点校としていますが現実として他校の児童は利用できません。
すべての小学校を巡回指導できる体制をつくるべきと考えます。

長久手市エコサイクルシティ構想



安全なまちづくりのために
自転車と歩行者と車を分けることが
必要と考えます！

近年自転車による事故が多発しています。このなかで警察庁は段階的に自転車の車道走行をすすめていく方針を決めています。これには道路管理者である地方公共団体との連携が不可欠であり様々なローカルルールが作られる可能性もあると考えます。

佐野尚人はまずはルールづくりが必要と考えますので愛知県警と連携をしながらの長久手市の条例をつくって、それを基にしたエコサイクルシティをすすめていきたいと考えます。
（エコサイクルシティ構想は下記ホームページに掲載してありますのでご覧ください。）

NAOTO'S HEART

昨年の町議会の選挙においては２位となる963票もの大きな付託をいただき身の引き締まる思いです。今後とも住民のすぐそばにある政治を築いていきます。また改選後の臨時議会にて文教福祉委員会の委員長を拝命しました。

障がい児保護者団体、障がい者家族団体との面談をして瀬戸養護学校や発達支援室などを視察しながらその課題を共有し、文教福祉委員会として日中一時支援の補助の時間延長、精神福祉士の設置など担当課に要望しました。また12月議会においては委員会に付託された長久手温泉ござらっせとあぐりん村の指定管理の契約に関する議案で５年の契約を３年に委員会修正し、本会議においても全会一致で修正案が可決となりました。

今後とも活発な委員会活動にも努めていき、議会の活性化に努力いたします。

みなさんの抱える日々の暮らしの中での
疑問やお願い、困り事
を聞かせて下さい。

みなさんの声

最新情報はHP・ブログにて随時更新中!!
長久手市議会議員 佐野尚人 議会活動報告

HPはこちら
NAOTALK
長久手市議会議員 佐野尚人 -WEB SITE-
http://www.sano-naoto.com

ブログはこちら
naotalk_blog
http://www.sano-naoto.com/naotalk_blog/

ブログは携帯でもOK

発行者：佐野　尚人
〒480-1114愛知県長久手市長配1丁目707番地の2
☎ 0561-61-2085　nagakute@sano-naoto.com

※この活動報告は、政務活動費の一部を使用しています。

新たな長久手のために

長久手市議会議員
佐野尚人
議会活動報告

NAOTALK

東日本の震災から我々が学ぶべきことは未だに収束の見通しのない原発事故を通して、原子力に依存しないようそのライフスタイルから見直し、自然エネルギーを活用するスマートコミュニティーとしてのまちづくりをしていくことではないでしょうか？
また耐震化をすすめながら災害に強いまちづくりをしていきます。

自然エネルギーへの転換を目指す

大手電力会社以外の特定規模電気事業者(PPS)からの入札による電力購入などをしながら多様なエネルギー利用を検討していく

今後研究をして購入を検討していきたい(10月議会総務部長答弁)

太陽光パネル設置工事の助成などを拡大しながら、自然エネルギーの普及に努めていく

今後進めていく区画整理事業などで次世代スマートハウスの建設を推進していき、自然エネルギーを活用できる街づくりを進めていく

自治体としての意思を表す

脱原発に言及をして非核平和都市宣言をしていく

非核・平和は町民全員の願いであり、今後検討していきたい
(10月議会総務部長答弁)

災害に強い街をつくる

すべての小学校に福祉避難所を

震災が起こったときに家族がいっしょだとは限りません。小さなお子さんがひとりで残ってしまうことも予想されますが、たとえ小学校低学年であっても、いつも通っている学校までなら行けるかもしれません。それが知的に障がいのあるお子さんであれば尚更そこには福祉避難所が必要です。現在福祉避難所は福祉の家しかありません。

減災のためにも耐震工事費の補助金枠を拡充しないか。

マグニチュード8以上くらいの大きな地震が起こっては少々の耐震対策など無駄と言われている。東北地方のように市全体が破壊されてしまう前に対策をとり、住民の財産を守ることで、町を守ることにつながっていく。壊れてしまってから復興にお金をかける前に耐震工事を進めることにお金をかけていくべきと考える